

平成25年度 学校評価

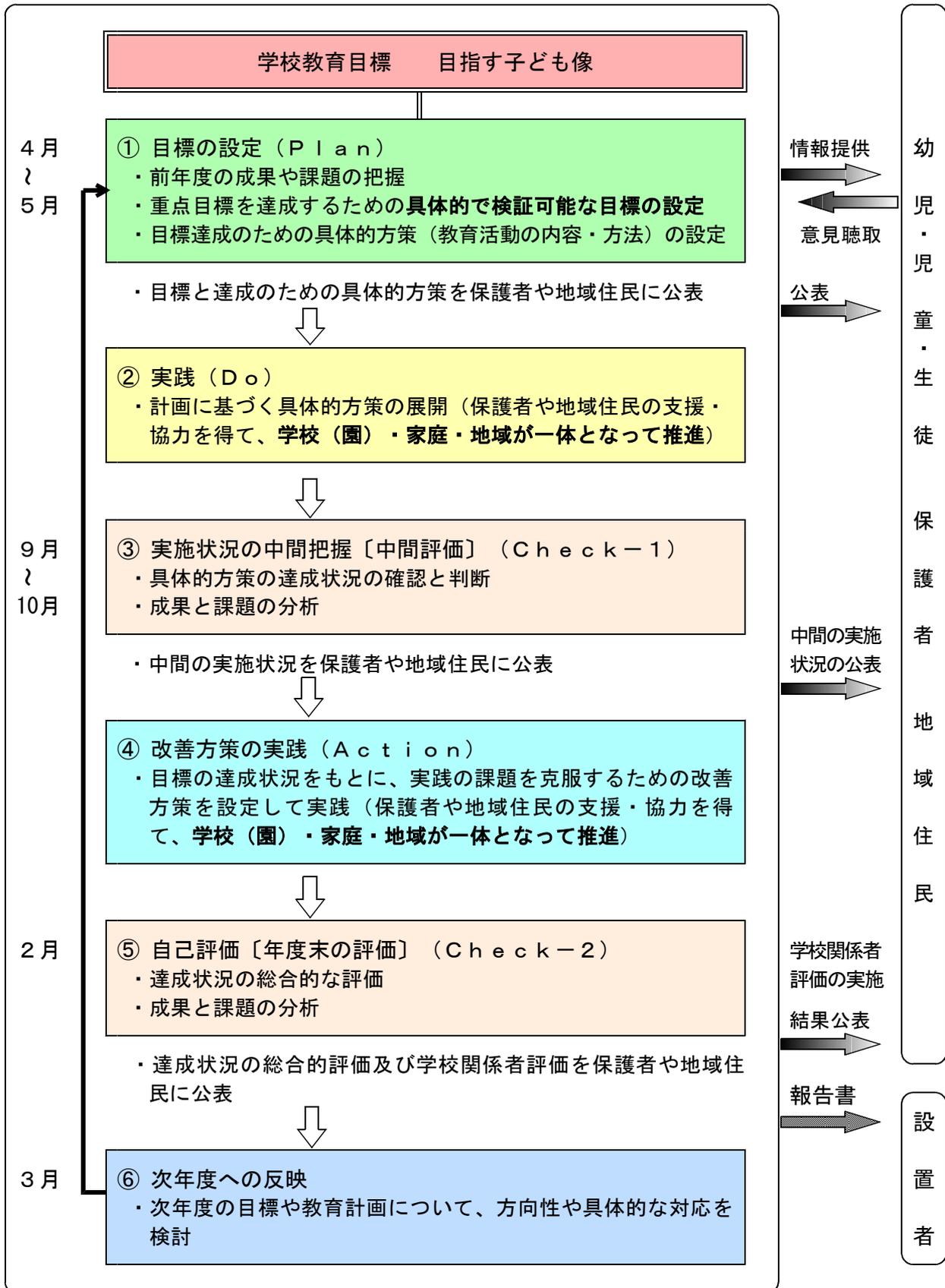
平成25年度 「自己評価」

・生徒指導・地域連携 p 3

・学力向上・進路指導 p 5

・特別活動の充実 p 7

あきた型学校評価システムの進め方



「あきた型学校評価システムの推進」

(秋田県教育委員会 平成20年6月)

平成25年度 秋田県立新屋高等学校 教育計画

1 教育目標

教育基本法ならびに学校教育法に則り、真理を希求する心身ともに健康な「知・徳・体」の調和のとれた人格の完成を目指すとともに、「自尊 自知 自制」の校訓のもと、社会の幸福に貢献できる有為な人材を育成する。

2 教育方針

- I 基本的生活習慣の確立 豊かな感性を培い、品性を重んじ、自律的に行動する人間の育成
- II 学力の向上 強い目的意識と高い学習意欲をもち、不断の向上を目指す人間の育成
- III 特別活動の充実 健康な心身を養い、社会的連帯性と創造性をもち、社会の変化に主体的に対応できる人間の育成
- IV 進路の早期決定と実現 早期に進路決定に取り組み、その目標に向かって真剣に努力する人間の育成

3 経営方針

I 教育目標実現のため、「生徒の命を守り、心身ともに健全で自律性に富む人間の育成を図る」ことを本校教育の基本的立場とする。

II 重点目標

- 1) 自主的・自律的態度のもとで、規律正しく行動のできる心豊かな生徒を育てる。
 - ① 地域の学校であることを自覚し、地域の人達から信頼され、評価される生徒を育成する。
 - ② 校内外で、挨拶、整容、ルール、時間遵守など社会規範を強く意識した行動がとれる生徒を育成する。
 - ③ 家庭と連携し、規則正しい生活と、必ず朝食を摂る習慣で、学校での諸活動に備えられる生徒を育成する。
 - ④ 危機意識をもって危険回避を常に心がける生徒、および何が高校生として相応しいか自ら考え、判断して行動のできる生徒を育成する。
 - ⑤ SCや関係機関と連携し、教育相談委員会が中心となって問題を抱える生徒を中心に情報を収集し、全職員が情報を共有して適切な指導ができる体制作りに取り組む。
- 2) 学力向上を図る学習指導を研究・強化し、個々の能力・適性を伸ばすきめ細やかな進路指導のもとで、自主的に学習する生徒を育てる。
 - ① 朝学習を10分間とし、心を落ち着かせてから授業に取り組みせることで、学力向上につなげる。
 - ② 3分前行動・ベル即授業を励行し、授業の密度を高める。また、机上に不必要なものを置かないなど、集中力を高める工夫を行う。
 - ③ 評価項目や手立ての工夫で、評価結果が授業改善に結びつくような授業評価を実施する。
 - ④ 学習に関するオリエンテーションなどの充実を図り、自学できる態度・習慣を培う。
 - ⑤ 授業での基礎学力の定着はもとより、併せて補習のあり方を充実させることで、得意教科の強化、不得意教科の克服、最後まであきらめない精神力を養う。
 - ⑥ 「休養日」の設定や、部活動終了時間の厳守などにより、学習時間の確保に努める。
 - ⑦ 教室内環境の整備、校内環境の美化、教室配置の見直し、利用しやすい施設・設備の整備・改善などに取り組み、学習に適した環境作りに努める。
- 3) 生徒会活動と部活動の活性化を図り、心身ともに健全な生徒を育てる。
 - ① 生徒会執行部を中心に、生徒による自主的な行事の企画・運営ができるように指導する。
 - ② 日々の練習をとおして、主体性や協調性、最後まで頑張り抜く気力・体力を養う。
 - ③ 新高の新たな歴史を築く気概をもって、新高生としての本分を十分尽くせるよう、生徒の自覚を促すとともに、それを支える校内支援体制の充実・強化に取り組む。
- 4) キャリア教育の充実を図り、自己の進路目標に真剣に取り組む生徒を育てる。
 - ① 担任は1年次よりキャリア教育を充実させ、生徒による自主的な進路目標を作成し、進路実現のために具体的な事項を設定した指導を実施する。
 - ② 学年部は生徒一人ひとりの進路目標達成のために最善の努力を行い、生徒の主体性を尊重しながら、適切な指導を行う。
 - ③ 部活動顧問は部活動の目標が、その生徒の個性を伸ばし人格の陶冶のために存在することを肝に銘じ、部活動で培った強い精神力をとおして進路の実現を図らせる。
 - ④ 進路講演会や進路別ガイダンスの開催など、あらゆる機会をとおして生徒の多様な進路希望に対応する場を設定する。
 - ⑤ 「総合的な学習の時間」を、キャリア教育や進路実現につながる実践的な学習の時間として活用する。

評価領域	生徒指導・地域連携
------	-----------

重点目標	自主的・自律的態度のもとで、規律正しく行動できる心豊かな生徒を育てる。	P
現 状	これまで重点的に基本的生活習慣の確立に取り組んできた。特に整容面や挨拶の励行など一定の成果を上げている。全体としては落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている。しかし、自転車事故が年々増加し、いずれも被害者ではあるが、時と場合によっては加害者になる恐れがあることを十分認識させ交通ルールの遵守も含め規範意識を高めさせる必要がある	
具体的な目標	①マナーアップ指導の徹底②非行、事故の未然防止と、問題行動時の適切な対応 ③学年部・教育相談部・地域・家庭との密接な連携。	
目標達成のための方策	①全校集会においてパワーポイントを使用し学校内外でのモラルやマナーを説明する。 ②毎朝の昇降口指導、定期的な整容指導で制服を正しく着用させる。集会などで注意を喚起し、問題行動発生時に備え定期的な指導部員の意思の疎通をはかり、発生時には迅速な対応と保護者への丁寧な対応を心がける。 ③職員間の報告・連絡・相談を怠らない。定期的な地域社会との情報交換を行い情報収集を怠らない。	
具体的な取組状況	①4月、新入生を迎え直ぐに全校集会を開きスクールマナー集会を開催。挨拶の仕方、言葉遣い、制服の着用、学校生活、登下校のマナー、携帯電話の使い方などきめ細かく事例を挙げて徹底させる。全職員による年4回の昇降口指導をはじめ、毎日職員、生徒（部活動・委員会）が昇降口に立って遅刻防止や挨拶励行を指導する。 ②集会時には必ず問題行動に関する事例を挙げ注意を促し、全校一斉に行われるアンケートの状況をきめ細かく分析し、問題行動の未然防止に役立てる。また、定期的に校内外の巡視を行い生徒の動向を把握する。 ③清掃ボランティアを実施し、働く喜びを知ると同時に、地域住民とのかかわりを深め、地域の一員としての自覚を持たせた。二年教養コースの学校設定科目「地域コミュニケーション」では地域との交流を実践した。	D
達成状況	①1年生はもちろんだが2、3年生にとっても効果がある。先生方に対する言葉遣いや職員室入室時などの挨拶や言葉遣いも適切に使い分けるようになる。概ね制服の着用に関しては良好であるが、挨拶の仕方や声の大きさに課題が残る。 ②規範意識を高めるために集会時の注意や毎朝の昇降口指導で生徒の状況を把握する事によって、事故の未然防止に繋がっている。定期的な校内、校外の巡視で生徒の動向を把握し問題行動の抑止力にもなっている。 ③地域の方々や保護者とのかかわりを深める中で「新屋で生活をする一員としての自分」という視野を持つ生徒が増えている。また、地域社会に貢献するボランティアも積極的に参加している。	

自己評価	(評価) B	(根拠) ①スクールマナー教室の取り組みの効果は十分あった。特に、場面に応じた挨拶や言葉遣いなどは適切に使えるようになったことや、携帯電話の使い方、モラルやマナーなどの問題行動は未然に防止された。しかし、依然と自転車と自動車との接触事故が多発したことに関しては交通ルールに関しての規範意識向上と命の大切さについて再度指導する必要がある。 ②定期的な整容指導と毎朝の昇降口指導で生徒の状況を把握する取り組みは粘り強く行えたが、挨拶の仕方や声の大きさに課題が残った。また、年々スマートホンを使用する生徒が増加し新たな問題が発生しかねない状況になってきた。先行する技術や生徒の使用技術に対してどのような指導をしていくべきかが課題である。問題行動は起きなかったが常に保護者に対しても誠意を持っての対応を心がけた。 ③学校周辺の巡視の際に校外での生徒の生活状況を把握し、学校側からの情報も伝えるなど連携を図れた。	C
------	---------------	--	---

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ、目標を達成できた。
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

学校関係者評価と意見	(評価) B	マナーやルール、整容面の向上は学校側の地道で継続した指導の成果が着実に現れているものと評価したいが、地域住民からさらに愛される学校(生徒)、「おらほの学校」として認知して頂くためには、登下校時の地域の人たちへの挨拶や言葉づかいをキチンとするべきである。 また、駅の駐輪場を利用する生徒をはじめ自転車で登校する生徒の自転車運転のマナーや交通ルールを守るといった規範意識の向上を切に願う。 地域連携に関しては、日吉神社の祭典、冬祭りなど積極的に参加している姿を見ることが多くなり今後さらなる期待を込めたい。また、ボランティア活動への積極的参加も地域住民との関係を深める機会にして頂きたい。	C
------------	---------------	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	マナーアップ指導の徹底を重要課題として生徒指導を展開してきた。その中の、身だしなみを整える事に関しては評価を得ることができたが、あいさつの励行に関しては、校内外共にできていないと指摘を受けた。自ら進んであいさつができる、“生き方指導”がこれからの生徒指導の求められる最重要課題と捉えていきたい。 高校生の自転車による交通事故が年々増加している中、本校でも被害者はもちろん加害者になってしまう事例が発生してしまったが、交通安全講話や全校集会、ホームルームでのきめ細かな指導を今後も怠らず、命の大切さ、命の尊さもふくめた教育をより強く深くしていきたい。	A
-----------------------	---	---

評価領域	学力向上・進路指導
------	-----------

重点目標	学力向上を図る指導を研究・強化し、個々の能力・適性を伸ばすきめ細やかな進路指導のもとで、自主的に学習する生徒を育てる。
------	---

現況	これまでの学校評価で、進路目標をしっかりと持って意欲的に学習に取り組むことのできていない生徒や家庭学習の習慣が確立していない生徒が少なからずいることが、大きな課題とされてきた。授業改善を通じて生徒の学力の向上を図るとともに、キャリア教育の充実を通じて生徒に将来の目標を明確に持たせ、家庭学習を含めた学習に意欲的に取り組ませる指導が求められる。
----	---

具体的な目標	①授業改善 ②家庭学習の習慣付け ③部活動との両立 ④進路目標の早期設定と実現
--------	--

目標達成のための方策	①授業改善…効果的な発問と生徒の発言を引き出す工夫を取り入れた授業の実践。授業力向上のための互見授業の実施。ベル着・ベル授業の徹底。学習環境改善。 ②家庭学習の習慣付け…教科学習オリエンテーションの充実等で自学できる態度・習慣を培う。授業に活かせる宿題・課題の工夫。朝学習による自学・自習の定着。 ③部活動との両立…学習時間や「休養日」の確保。夏・冬休み始めの「学習強化期間」の実施。全員受験模擬試験・資格試験の実施（1年・2年・3年）。 ④進路目標の早期設定と実現…将来の目標をしっかりと持たせた進路講話、進路別ガイダンス、総学の活用等。二・三者面談の充実。学年進路検討会に基づく生徒へのアドバイス。キャリア個人カードの活用。進路通信発行。キャンパス訪問（1年生）、職場訪問・オープンキャンパス参加（2年生）の実施。キャリアアドバイザーによる積極的な支援。
------------	--

具体的な取組状況	①授業改善に結びつくような評価項目に基づいた授業アンケートを2回実施。互見授業週間を2回設け授業力向上を図った。ベル着・ベル授業の徹底を図った。 ②1学年全体への教科オリエンテーションの実施。2・3年生に対しての教科担任によるシラバスを配付しての教科オリエンテーションの実施。週末課題・朝学習実施。 ③週1日の休養日「ももさだの日」を継続。1・2年生に、全員模試3回とTOEIC-Bridge 1回を実施した。意欲を喚起するためにTOEIC-Bridgeで表彰制度を設けた。 ④進路講演会、進路別ガイダンス、三者面談の充実。キャリアアドバイザーによる職業講話・就職指導。学年進路検討会（2・3年）実施。学習強化期間、朝・昼・放課後・土曜補習の充実。
----------	---

達成状況	①授業改善については、10月に中高等学校学習指導研究協議会を実施し、5教科の研究授業を行い、中央地区の中学校教員と指導のあり方について研究協議を行った。4年目となって定着した互見授業は、教員にとって良い刺激となっている。 ②家庭学習にしっかり取り組んだと自己評価する生徒は69%（昨年61%）と増加した。 ③1・2年学習強化期間出席率は92%（昨年82%）に向上した。全員模試のデータは3年間の進路指導の指針となる。TOEIC-bridge導入で全員が資格試験に挑む体制とした。 ④進路講話や進路ガイダンスは、進路目標の設定のみならず、職業観や勤労観等の育成に結びついた。1年生全員のキャンパス訪問、2年生職場訪問により進路意識の高揚と理解が図られた。キャリアアドバイザーによる就職指導が、高い就職内定率に結び付いた。学年進路検討会で進路指導に関する学年の共通理解を図った。
------	--

P

D

自己評価	(評価) B	<p style="text-align: center;">(根拠)</p> <p>①発問の工夫、ベル着授業、学習指導研究協議会、互見授業などにより、生徒からの授業評価は向上した。ただし、授業内容に満足していない生徒が100名余りおり、改善の余地がある。</p> <p>②家庭学習の習慣づけについては何年も前からの課題である。生徒アンケートでは、家庭学習習慣は昨年より若干向上しているが、10月の学習時間調査では、平均で1年生1.1h、2年生1.5hと、2～3時間/日の目標にはまだまだ遠い結果が出ている。一層の家庭学習習慣の定着を図る必要がある。</p> <p>③部活動との両立は、週1日の「休養日」や長期休業中の「学習強化期間」を設定し、学習時間確保を促している。「休養日」に合わせて各学年月曜補習を実施している。ただし、1・2年生運動部所属国公立大志望者の家庭学習時間平均は1.2hと、目標の2時間/日には達していない。</p> <p>④総学等で計画的に実施した進路行事や面談等が進路目標の早期設定と実現のために全般的に役立っていると昨年度よりも評価されていることが、生徒・保護者のアンケート結果から読み取れる。ただし、「進路目標を持ち意欲的に授業に臨んでいる」と言えない生徒が、アンケートからまだ127名いることは、大きな課題である。</p>	C
------	---------------	--	---

↑
評価基準
↓

A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた。
 B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

学校関係者評価と意見	(評価) B	<p style="text-align: center;">アンケート結果から見ると、授業や進路指導に対する満足度は向上してきているようだ。</p> <p>ただし、家庭学習の時間の少ない生徒が多いことが大きな課題である。全員が早期に高い進路目標を持って努力するよう粘り強い指導が求められる。</p> <p>また、個々の生徒の多様な進路に応じた指導の充実を図ってほしい。進学希望者はもちろんのこと、就職希望者にも一段の学力向上を図ってほしい。</p> <p>学力向上に成果のあった生徒に対して目に見える評価をしてあげたり、家庭学習に関して保護者と話し合う機会を設けるのも一法ではないか。</p>	C
------------	---------------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>「高い進路目標を早期に定めること、目標達成のために家庭学習の習慣を定着すること。」この二つが依然として、大きな課題である。</p> <p>自らの進路目標を定めるために、広く社会に目を向け生き方を考えることができるよう、本や新聞を読む習慣づくりに取り組みたい。</p> <p>また、受験のみならず将来仕事をしていく上でも、自ら学習する習慣が肝要であることを訴える機会（ホームルーム、学年集会、外部講師の講演会等）を増やしていきたい。</p>	A
-----------------------	--	---

評価領域	特別活動の充実
------	---------

重点目標	健康な心身を養い、社会的連帯性と創造性を持ち、社会の変化に主体的に対応できる人間の育成。	P
現 状	本校は創立30年目となり、来年度の記念行事等の準備を進めているところである。この機会に母校に対する誇りや意識を一層高めるには部活動が重要との認識から、強化指定部を中心に部活動の活性化に取り組んできた。とりわけ文化部では吹奏楽部や理科研究部、運動部ではサッカー部・弓道部・剣道部・バドミントン部などが全国・東北大会等での活躍が期待されている。生徒会活動としては、学校行事の充実はもちろん、地域ボランティア活動にも積極的に参加している。	
具体的な目標	①生徒会活動の充実 ②部活動の活性化 ③心身の調和した発達	
目標達成のための方策	①生徒会活動の充実・・・執行部を中心に、主体的な行事の企画・運営ができるよう指導する。地域との交流を深めるため、学校行事等について地域への周知を図る。 ②部活動の活性化・・・全国や東北レベルで活躍できる部の育成のため、予算の適正配分や補助等ある程度の絞った支援体制を確立する。各部において適切で合理的な指導が行われるよう各顧問の意識を高める。 ③心身の調和した発達・・・文武両道の精神に則り、部員の学習時間の確保とともに学習や進路目標に対する意欲を高める。	
具体的な取組状況	①生徒会執行部を中心に、各行事の運営に主体的に取り組んでいる。学校行事の開催については地域の広報紙等に掲載してもらうなど周知に努めた。また、恒例となっている地域の祭りには一般生徒の希望者も参加した。生徒会役員の他に30周年生徒実行委員を任命し、来年度に向けた準備にあたっている。 ②各部の実績に応じた強化費の配分や遠征補助等により、部活動の活性化を図った。文部科学省のガイドラインを参考に適切な指導についての研修を行い、指導者の意識改革を図った。 ③定期的な休養日や学習強化期間の徹底により、部員の学習時間を確保するとともに、考査期間に勉強会を実施するなど部員の意識向上を図る部も見られた。	D
達成状況	①生徒会活動では、オープンスクールでの学校紹介やリーダー研修会参加、韓国ソウル高校ホームステイ受け入れ、こでん回収協力等の活動等の他、日吉神社の祭礼や新屋大川散歩道雪祭りへの参加、栗田養護運動会運営ボランティア等、地域との交流活動が定着してきている。学校祭等においても積極的に全校生徒の要望を取り入れるなど、執行部による主体的な企画・運営が見られた。 ②今年度は、弓道部（女子団体）とバドミントン部（女子ダブルス・シングルス）がインターハイ出場、東北大会（新人戦含む）には、サッカー部・弓道部・バドミントン部・女子テニス部が出場している。 ③休養日（百三段の日）や学習強化期間の趣旨が定着して、部活動と学習の両立を目指す生徒が学習時間を確保することができる環境が整ってきている。自分の進路目標を明確に持って学習に取り組む生徒も見られた。	

自己評価	(評価) B	<p>(根拠) 30周年の節目に向けて、部活動の活性化を図るため、限られた予算の中で各部の実績に応じた強化費の配分や遠征費補助等を行い、部活動の強化を支援した。各部においても、適切な目標設定や練習内容の改善、外部コーチ活用による技術面・体力面・メンタル面の強化等に取り組むことで一定の成果を得た。</p> <p>①生徒会活動では、執行部が中心となり、新高祭をはじめ各種生徒会行事の企画・運営に主体的に取り組んだ。また、毎年恒例となった地域行事への参加やボランティア活動を通じ、地域との交流を深めている。</p> <p>②全国大会へ進出した弓道部やバドミントン部をはじめ、東北大会には個人・団体とも多くの部が出場した。上位大会で勝ち進むには、一層の強化策や支援体制の確立が必要である。</p> <p>③休養日（百三段の日）や学習強化期間の趣旨が浸透し、部員の学習時間はある程度確保できるようになってきたが、生徒個々の進路目標に対する意識にはまだばらつきがあるように見受けられる。</p>	C
------	---------------	--	---

↑
評価基準
↓

A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた。
B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

学校関係者評価と意見	(評価) B	<p>生徒会を中心とした地域活動への参加は徐々に地域に浸透し、地域からの評価が高まってきている。栗田養護学校のボランティアや地域の祭りへの参加などは是非今後も継続し、より多くの生徒が参加できるような仕組みを考えてもらいたい。部活動においても限られた予算や施設の中でもバドミントン部や弓道部の全国大会出場等の成果をあげている。吹奏楽やサッカー、野球などの団体競技を含めて、30周年の節目に是非結果を出してもらいたい。生徒の愛校心や帰属意識の高揚、地域との一体感を醸成するためには、部活動の全国レベルでの活躍が望まれる。</p>	C
------------	---------------	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>生徒会活動においては、執行部を中心に自発的な企画や学校行事等に主体的に取り組む姿勢が見られるようになった。地域行事への参加やボランティア活動も恒例となっており、さらに交流を深めるためには一般生徒をより多く巻き込む仕組みづくりが必要である。また、30周年に相応しく学校行事において全校生徒が一体となって盛り上げられるような学校行事の運営が求められる。</p> <p>部活動では、強化指定部を中心に団体及び個人種目で、全国大会・東北大会での活躍が期待されており、これまで積み重ねてきた強化策の成果を発揮できるよう、的を絞った予算配分や支援体制を確立することが重要である。また、30周年を記念する招待試合では、強豪校を相手に日頃の練習の成果を発揮し、全校生徒が一丸となった応援をすることで30周年に花を添えられる試合としたい。</p>	A
-----------------------	---	---